

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990100519		
法人名	社会福祉法人 協同福祉会		
事業所名	あすならホーム高畑 グループホーム		
所在地	奈良市高畑町469-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2990100519-00&ServiceCd=320&Type
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和2年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「お年寄りから子どもまで、みんながいつまでも安心して暮らせる地域や町であって欲しい。これが、私たちの願いです。」と願いを込めて、「市民参加により誕生した社会福祉法人」として、子育て高齢者介護と共に、町に生まれている人すべての方と関わりを持てるように願っています。社会貢献活動として、「買い物バス」「ランチ企画」など高齢者の居場所や介護予防普及を行っています。買い物難民解消の手段として、移動販売車の受け入れや地域の社協、学生や学校との関係も作り、お手伝いできればと思い子ども食堂等も行っていきます。介護事業として、地域に開かれた施設を目指し、在宅での介護や暮らしを応援。畳や吉野杉を使い、家庭的な温かさ・生活空間を大切にしています

事業所は奈良の有名神社仏閣にも近い閑静な住宅地の中にあり、美しい日本庭園を配置するなど古くからの街並みに馴染むよう配慮して建てられている。事業所建物の1階には看護小規模多機能ケアホーム、2階には2ユニットのグループホームが運営されて3年となる。利用者は安心して温もりのあるケアを受けており、地域住民にとっても広範囲に在宅支援を担える事業所のお蔭で、安心して地域で生活することができる。抽象的な理念ではなく、利用者本位の具体的な理念を掲げ、実践している事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄りから子どもまで、安心して暮らせる町であってほしい」という基本方針と「大切にしたい7つのこと」という法人理念を持ち、毎年職員の会議で伝えている。	地域密着型サービスの意義をふまえ、法人の基本理念に地域との交流を掲げて、地域の老若男女が気軽に集まる開かれた施設を目指している。地域との交流ができるよう環境整備し、交流を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・サロン活動・地区社協・子ども食堂等地域の方が出入りする事とこちらから出かけ関わりを持っている。 令和2年度は、感染症予防の為、出入りは少ない。自治会活動自体も自粛傾向の為、関わりはしている。	事業所1階の地域交流スペースにキッチンを設置し、地域サロンや子供食堂、地域と職員の活動会議などに使用している。また、見晴らしの良い自習館もあり、児童や地域の人が自然に集まりやすい環境をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サロン活動でのミニ学習会(毎月15日)や日常的に相談がある際に取り組みや思い等を伝えている。 令和2年度は感染症予防の観点から開催が行えていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施をしている。 令和2年度は感染症予防で、開催が行えていないが、例年意見や話し合いで出された事を取り入れるようにしている。	運営推進会議は、2か月に1回開催しているが、7月のみ家族、地域の方と開催した。インスタグラムを開設した事や転倒事故報告をした。家族から職員の名前がわかる工夫や異動を知らせしてほしい要望があり、不安を助長しないように壁に貼る事等を考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営での確認事項や介護事故があった場合などは、窓口へ行き確認等を行っている。	「春日飛鳥地域包括支援センター」の管轄であり、普段から連絡、相談を行っている。市役所の介護福祉課へは利用者の介護保険更新手続きなどで毎月行き、相談、制度確認などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッド柵の不使用や施錠についても行っておらず、日頃の支援の中で不適切な支援が起こらない事を確認している。たま、半年に1度は全体会議等でも学習を行っている。	半年に1回、法人本部で全職員が参加して身体拘束の研修を行ってきたが、今後はリモートを活用して行う予定である。身体拘束マニュアルを基本にセクハラ、虐待についても具体的に学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の会議や事業所での会議にて定期的に学習と振り返りを行っている。フロアでの言動等で不適切な対応があれば、都度注意や面談などを行い注意・防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人での学習会や管理者やケアマネジャーは、地域包括等が行う学習会への参加を行っている。実際に、利用されている入居者もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改訂等があれば、その都度家族への説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の面会等で、日頃から職員と家族と意見交換などをしており、それらを反映するようにしている。	家族の面会は、週2回来られるの方から年1度しか来られない方もいる。要望などは業務日報、申し送りノートに記録して、職員間で確認し共有している。衣替えなどは、家族からの問い合わせが来る前に事業所の方から伝えるようにして気を配っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所の会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、年に2回は定期的な面談の機会を設けており、検討や反映を行うようにしている。	年2回管理者・施設長と職員との面談の機会があり、正規職員は目標提出やその振り返りを行う。非常勤職員はサブリーダーや管理者が対応する。業務のなかでの職員の提案は、ほぼ実行に移して質問には必ず答えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の考課面談の機会を設け、職員個々の状況の把握に努めている。また、毎月の会議の機会を使い、職場環境等の確認を行うよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や採用時の研修等を活用している。外部研修については、自主性を尊重し、希望があれば都度検討をして参加をしてもらえるように調整を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や管理者、ケアマネジャーなど地域包括ケアシステム協議会の参加や同業者を集っての学習会や意見交換の場に参加している。職員と情報共有してサービスの質の向上にむけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には、ご本人とご家族で施設の見学を来て頂く機会を設けている。ご自身で住み替えを理解して頂く為にも、ご家族にお願いをしている。その際、ご本人からの意見を頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前には、ご本人とご家族で施設の見学を来て頂く機会を設けている。ご自身で住み替えを理解して頂く為にも、ご家族にお願いをしている。その際、ご家族から意見を頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や問い合わせがあった際は事業所内外の他のサービスも説明している。ご本人・ご家族から相談あった場合も情報提供して対応している。今年度は、見学についても画像等を使いフロアへの出入りをしないように協力をもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今できる事(家事等)は行ってもらい、おこないたい事や興味のある事、行きたい所を伺い、共に支援ができるように心がけている。今年度は、外出については自粛をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、面会については制限をしているが、お出かけや受診等に協力をもらい、生活の支援を共にしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会やご家族や知人のお出かけ、習い事等を継続してもらい、生活が途切れないように支援をしてもらっている。上記同様、感染予防の影響はでている。	面会は、コロナ禍でも事務所でマスクを着けてできるようにしている。高畑自治会に入りクリーンキャンペーンに参加している。事業所周辺の散歩をして、地域の方と挨拶を交わしている。コロナ禍で、地域へお出かけする機会は減っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者それぞれの性格等を理解し、フロアでの座席やトラブルにならないように、職員が間に入り関わる等をして孤立が生まれないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、ホームにボランティアや地域の方として関わりを持ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、ご本人の希望や意見を聞くようにしている。ご自身での意向を伝える事が困難な方は、それまでの生活やご家族の助言を頂きながら、本人本位に努めるようにしている。	契約時に思い出の場所や懐かしい場所、暮らし方の希望などを尋ね、アセスメントシートに記録して思いの把握に努めている。以前はコーヒー好きの方が多かったので、喫茶店に出かけた。法人の取り組みに「ふるさと旅行」があり、ふるさと富山へ連れて行きたい利用者がある。	利用者の大きな希望をかなえる「ふるさと旅行」という企画しているが、日々の生活のなかの利用者の小さな楽しみや希望を聞き取る工夫を更に望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後に、ご本人やご家族からできるだけ情報を聞き取り、今後の支援に活かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録でその日の本人の心身の状況を共有把握して、その時の状況に合わせて支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のより良い暮らしの為に、関係者や関わっているスタッフで意見交換をしている。希望の実現を視点として、それぞれの課題や問題点などを話し合っ計画作成をしている。	今年度から利用者個々の担当職員を決めている。本人の思いを中心にアセスメントとケアマネジャー、医師のアドバイスを参考にケアプランをたっている。家族の確認後にサインをもらっている。モニタリング結果をまとめ、半年ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や、記録表、支援経過などに記録を残し、利用者個々に日々の様子やケアの実践、結果、気づきなどを職員間で情報共有し、支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	移動販売車やサロン等の取り組みは、地域貢献でもあるが、入居者や利用者にも活用できる事で、常に事業所の多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社協の行う歌声喫茶やオレンジカフェなどへの参加、地域への買い物など、暮らしの中にあるコミュニティを使い生活が送れるように支援をしている。今年度については、自粛をしている状況。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医に2週に一度訪問診療を受けている。また、専門外等で他の医療機関を受診する際は、ご家族にも協力をお願い、受診や情報提供等の支援を行っている。	協力内科医が月2回の訪問診療を行っている。歯科医師や歯科衛生士の訪問もある。皮膚科などへは家族と通院したり、家族ができない場合は職員が付き添っている。結果は支援経過に詳しく書き留め、職員共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師や嘱託医のいる診療所との相談・情報共有を行っている。 個々の入居者が適切な看護を受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してから退院までの間、面会等を行い、相談や情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当ホームの看取り指針や意向の伺いについて確認をしている。また、状態の変化があればその都度看取りについての意向の確認をし、嘱託医等へも協力を依頼している。	入居時に終末期について看取り指針や意向伺い書について説明をしている。最近、家族と医師や看護師と連携をして、1人の方の看取りを実施した。管理者は職員に気を配りつつ、いつでもサポートできるようにした。看取りケアの記録を職員で共有し、今後活かす予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、その流れで支援している。定期的に看護師や職員間で勉強会を行い実践力を身に付ける努力をしている。ただ、まだ職員の対応力の差は一律化できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域住民にも参加してもらい消防避難訓練を実施している。夜間の職員間でも実施している。マニュアルを用いて会議などで確認している。今年度は、予防対策の為、地域住民の参加ができていない。	職員は、非常時に備え防災マニュアルを常時携帯している。年2回防災訓練を実施しており、夜勤専門の職員は夜間想定で実施している。台風の際は地域の方が避難しに來られた。2日分の食料や飲料水の備蓄している。	火災や地震、水害に備えて、利用者の避難に何分かかるのかなど、具体的な訓練も必要と考える。また、地域住民との交流も深く、普段からの備蓄ももう少しあればよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年、研修や学習会などで学習をしている。不適切な言動や対応があったときは、その都度注意して改善するようにしている。	トイレが各部屋にあり、失禁時の着替えなどは周りに気兼ねなくすることができる。職員の介護記録の記入は、プライバシーに配慮し相談室を使用している。職員は、自分にされて嫌なことは利用者にもしないよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ、本人の意思を尊重、自身で決めてもらえるように声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、体調や希望により食事や起床など、ご本人のペースで過ごして頂けるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節毎の衣類を家族に準備してもらっている。意思表示できる人には自身で選択してもらい、できない人は本人の好みで職員が選択をしている。外出時などはTPOに合わせておしゃれしてもらっている。身だしなみの買い物へも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お皿への盛り付けや後片付けの手伝いとして食器拭きなどを一緒に行ってもらい、ご本人の生活上での役割が持てるように支援をしている。食事も職員も同じ物を一緒に食べ、食の好みなど会話に取り入れて支援をしている。	ご飯とみそ汁は事業所の台所で職員がつくっている。主菜は業者が配達したチルドのものを、温めて提供している。月2回は手作りのお好み焼きやお鍋など職員と一緒に食べる。毎週水曜にコープの移動車が来て、買い物を楽しむことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れた食事を提供している。摂取量も把握して必要であれば栄養補助食品なども摂取してもらっている。水分摂取量も確保できるようにさまざまな飲料を試している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回、訪問歯科の訪問診療がある。歯の治療や口腔ケアの指導を受けて、その人の能力に合わせて毎食後に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつをしないケアを行い、皆さん布パンツを使用し、トイレでの排泄の支援をしている。必要な方にはパットの使用や大きさを時間帯で使い分けるなど個別で行っています。	利用者全員が布パンツを使用し、パット対応の方もいる。排泄チェック表を活用し、適切なタイミングでトイレ誘導を行っている。個々の排泄習慣を大切に、トイレに座って自然な排泄ができるように、飲み物やオリゴ糖なども工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座る事で腹圧と重力を使い便秘予防を行っています。また、食事や飲み物等の工夫により腸内環境の正常化への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっている。本人の心身の状態に配慮し、拒否や気分がのらない時は無理強いせず、臨機応変に支援している。	入浴は、午後の時間帯に一日3名づつ、週2回入ることができるよう支援している。浴槽は檜で、職員とゆっくり会話を楽しみながら入浴している。女性の方は同性介助でゆったりと入ってもらう。脱衣場には転倒防止のため、テーブルを置いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には、日中でも30分～1時間程度休んでもらったり、体調に合わせて横になって頂くように心がけている。 夜に関しても、寝付けなないなどその日の状況に合わせて、休む時間を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を職員が確認できるようにしている。薬が変更された時は、申し送りや記録等で確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好みを聞き取り、スタッフで共有し外出や生活支援に反映できるように心がけている。 月に2回は手作りの調理を一緒にして、気分転換等につながるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など行えるように支援をしている。例年であれば計画を立て、外食や好みの場所への外出を行えるように支援をしているが、現在は、感染症予防の為自粛をしている。	今年はコロナ禍の中で、事業所の敷地内か外周を歩くようにしている。事業所の前には畑があり裏には神社があるので、歩ける方は週3回位ゆっくりと散歩して、通りがかりの人と挨拶を交わす。車椅子の方も、敷地内で花を植えたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人もいるが、基本的に立替金で対応している。必要時には使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている人もいる。本人・家族からの希望があれば電話できるようにしている。手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材や畳などを使用しており、落ち着いた空間にしている。不必要な音や光もなく、季節に応じた花を植えたりしている。生活感や家庭的な雰囲気をだせるように工夫を心がけている。	内装に木を贅沢に使用し、床は畳敷で和紙の照明器具が気分を落ち着かせる。敢えて廊下に手すりをつけず、シルバーカーを使用する。共用場所にテレビを置かず、静かな空間が心地よい。ベランダは広いウッドデッキで、外気浴をしながらマッサージなどもする。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子などもあり、一人になれたり、気の合った人と過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物を引っ越しとして、持ち込んで頂くように、ご家族にもお願いをしている。	居室には、トイレ、クローゼット、洗面台、100cm幅のベッド、レストテーブルなどが設置されている。自宅からイスやタンス、テレビや仏壇を持ち込み、家族の写真や民芸品を飾る方もいる。アンケートの意見からトイレは一日おきに職員が掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札・トイレなどがわかるように表記をしている。玄関・食堂・居室・トイレ・浴室にも手つき台を置く事で、普段から生活リハビリの実践が行えるように配慮をしている。		